

浄法寺 木林事務所月記



編集・発行
岩手北部森林管理署
浄法寺森林事務所
二戸市浄法寺町
小池2-1
TEL0195-38-2033

残暑お見舞い申しあげます！福田です。お盆過ぎから風が涼しくなったように感じますね。今月も山での調査が続きました。ところで、森林官は一人で調査することはありません。どの森林官も現場職員とともに働いています。例えば、私の浄法寺担当区とお隣りの新町担当区は、「新町班」と呼ばれる6人の現場職員と協力して仕事を進めています。林の材積調査、官民界の巡視、測量、刈払い等々何でもこなす、現場作業のエキスパート！転勤のある我々にとつて、地元雇用で長年の経緯を覚えている彼らがいなくては、仕事が円滑に進みません。特に若い森林官は、仕事以前にコミュニケーションがとれるか、つまり「訛り」がわかるかが意外と大事だったりします（笑）。

新町班は昨年度4人、今年度2人定年を迎えるベテラン揃いで、私の方が息子さんより若いという方もいらつしやいます。また似顔絵でおわかりかもしれませんが、女性が2人います。以前、国有林野事業では苗木生産もしており、細やかな作業が必要とされる苗畑では、女性が多く勤務していました。そして昭和末期の縮小・廃止に伴い、二人は作業班に合流しました。いつも森林官の指示で作業しますが、逆に現場で教わることも多く、日々山の知識や雑学をたくさん学ばせてもらっています。暑い日も寒い日も（さすがに雨の日は屋内ですが）、たくさん汗をかきながら、地元の国有林を守っている人がいるのです。



漆の里さんぽ

漆掻きはその年に掻き取る本数を4等分して、4日間で一巡できるようローテーションを組むことが



溝の前少し平行に→
横溝をつけよう
漆をのり長くし平行に→



染白がや
ら液体ばる。
かす液す取
溝出の！掻き
一み色漆く

からはじまります。次の採取までに日を開けるのは、樹勢を回復させるためです。いきなり樹皮を引っ掻いただけでは、水しか出ません。ですから徐々に掻く「溝」を長くし、漆液が多く出るよう漆を「その気」にさせるのが職人技の見せ所！と言うが易し……。実は私、昨年体験させていただきました。溝は漆鉋（うるしかんな）という刃物でつけるのですが、それが写真のように真っ直ぐにならない……。しかも木に直面して左右両側に溝をつけるので、左側は手首を返しながら水平に溝をつけますが、これが難しい。しかもこのあとへらで素早く掻き取らなければなりません。何事も技の道は長く険しい！

浄法寺らまいもん

【いわて短角牛】
この夏、屋外で焼肉を楽しんだ方も多くありますが、浄法寺でお肉といえは短角牛！数力所ある放牧地はどれも国有林と隣り合っていて、移動中の車窓から眺める、広大な牧場と牛の群れは、いつも心を和ませてくれます。町内では年に数回ある販売会でお得に購入できるのですが、毎回長蛇の列ができません。脂肪が少なく赤身本来の味わいが楽しめるとてもヘルシーなお肉です。塩こしょうのみでも充分肉の旨味を引き出してくれます。ああ、こうやって書いていただけでちよつと書いちゃいました。



牧草を食べ、高原の太陽の下
のんびりすくすく育っています。



木林のスポットライト

稲庭岳周辺には原生林を源とした湧水地がいくつもあります。その一つが「岩誦坊（がんしゅうぼう）」です。アクセスも良いので、地元の方々やタンク片手に、登山客は下山後に立ち寄り乾きを潤していきます。その起こりにはこんなお話が……。昔、一人のお坊さんが金鉋を掘り当てようとした地を掘っていると、多量の湧き水が噴き出し掘り進むことが出来なくなりました。お坊さんはやむを得ず、人目につかぬよう石を積み重ね立ち去ったそうです。……「金鉋で一山当てようとするお坊さん」がとても気になります。岩誦坊は精霊が宿ると言われています。確かに暑い日は人間も動物も精霊も、涼をとりたくなる神秘的な場所です。

マイナスイオン
たっぷり
あたたかい♡